

ネットワークなどの取り組み

食の安全
ネットワーク

とちぎ食品安全フォーラムにパネラーとして参加しました

食の安全
の取り組み

2008年12月2日栃木県・食品安全委員会・宇都宮市の共催の「とちぎ食品安全フォーラム みんなで考えよう、食品添加物のこと」がとちぎ健康の森で開催され、生協連竹内会長がパネラーの一人として参加しました。行政関係者、食品取扱関係者、消費者団体、一般消費者など幅広い層の参加があり、内閣府食品安全委員会小平均リスクコミュニケーション官から「食品の安全性の確保について～食品添加物を例として～」と題した講演が行われました。

パネルディスカッションは「食品添加物を考える」をテーマに竹内会長他、行政関係者、消費者団体、食品事業者などの代表7名で行われ、商品の選択基準とリスク評価の問題や、最近関心の高い食品偽装などの話題も取り上げながら意見交換がなされました。竹内会長からは偽装問題はモラルに関する部分もあり安全性とは別の分野として考える必要があるとの発言がありました。

くらし部会

とちぎエコテック&ライフ2008に出展しました

環境の
取り組み

2008年12月12～13日の2日間、「とちぎエコテック&ライフ2008」がマロニエプラザで開催され、地域生協として取り組んでいる環境についての展示を行いました。今回は見学者の関心が増すようにと展示物を工夫して昨年の2倍のスペースでの出展となりました。

生活クラブ生協は、「牛乳ピンのふた」から作ったゴミ袋の展示販売。とちぎよつ葉生協は、「牛乳パック」から作ったトイレトペーパーの展示と販売、見学者がつくるアクリルたわしづくり。とちぎコープ生協は、見学者にエコチェックシートをトライしてもらい、重曹をプレゼントしました。生協コーナーに400人以上が参加され、3生協の連携した取り組みとなりました。



エコテック&ライフ2008

消費者
ネットワーク

消費者シンポジウム

2009年1月29日「消費者庁設置法案と私たちの暮らし」をテーマに消費者団体、一般消費者、大学関係者など約160名の参加をいただき宇都宮大学にて開催しました。「消費者庁設置関連法案と私たちの消費生活」についてネットワーク代表の宇都宮大学杉原教授が基調講演を行いました。次に特別報告として宇都宮大学4年野寺綾子さんと松田絢子さんから「栃木県内自治体首長への消費者問題インタビュー報告」があり、併せて助言者の日本消費者協会参与山田英郎さん、NPOとちぎ消費生活サポートネット理事長葛谷理子さんから消費者被害と社会背景から見る消費者教育の重要性についての発言がありました。

最後に竹内会長から、消費者が主役となる法案は画期的と言える、大切なのは設置された後消費者として常に関心を示し行政に提言することが重要とのまとめがありました。

とちぎの生協

栃木県生活協同組合連合会

〒320-0052 栃木県宇都宮市中戸祭町821(栃木県労働者福祉センター6F)

TEL: 028-624-6650 FAX: 028-624-6652

http://homepage2.nifty.com/tochigikenren/

2009年 春号

2009年を迎えて

会長理事 竹内明子

状況を把握するには数字はとても有益です。

12月下旬までに削減された非正規人員は約8万5千人。更に製造現場では派遣が100万人、請負が40万人、3月末に職を失う(日本生産技能労務協会、日本製造アウトソーシング協会調べ)という推計も出ています。正規職員のリストラ等、経済の悪化による雇用情勢は益々厳しさを増し、栃木県内でも国民保険の滞納世帯は7万7千戸(24.2%)、解雇を理由とした生活保護申請件数は11～12月の1ヶ月で35人(前年の2倍)と経済回復の困難さを否が応でも感じ取れます。

また、特別養護老人ホームの待機者は約38万人、現在の入居者数が約40万人なので、ほぼ同数の方が入居を待たれていることになります。しかし、この待

機者数というのは、実際に申し込みをされた方の数ではありません。1人で暮らすことが困難でも、申し込みに行くことが出来ない人などは入っていないのです。例えば、1人暮らしの膀胱ろう(排尿の困難を解消させるため、お腹から直接膀胱に管を入れるもの)をつけた方のお宅へホームヘルパーさんが朝伺うと、管が抜けていて、寝巻きから布団まで全てがびしょ濡れでガタガタと震えていらしたということがありました。

こうした数字からは、困難を抱えた方達が地域の中で確実に増えていることが読み取れます。そして、その枠外には計測されていない問題も困窮もあるのです。前述した雇用の数字も、その無機質な数の枠の外には人々のくらしの切実さが詰まっています。そうした現実を心で感じ取る必要があるとつくづく思います。

生協法制定60周年記念 厚生労働大臣表彰受賞

2008年10月31日厚生労働省において厚生労働大臣表彰式が執り行われました。今回は生協法制定60周年を記念して、全国で21人、32生協が受賞し、県内では生協連竹内会長、とちぎよつ葉生協が受賞されました。

個人表彰：竹内明子 栃木県生活協同組合連合会 会長理事

役員として20年以上従事し、人格見識に優れ地域との調和、福祉活動、組合の指導育成及び発展に貢献し、その功績が顕著であることから受賞となりました。

組合表彰：とちぎよつ葉生活協同組合

10年以上にわたり円滑な事業を行い、組合員の意思の反映、民主的な運営、地産地消などの地域社会への貢献が多岐であることから受賞となりました。



県連 竹内明子会長(左) と
とちぎよつ葉生協 富居登美子理事長(右)

会員と生協連の取り組み

おかげさまで… 20周年を迎えました

宇都宮市職員生活協同組合は、組合員や生協関係の皆様のおかげで、今年節目の20周年を迎えることができました。また、組合員の皆さまには、マイ箸等の記念品の配布を行ったところです。

さらに、毎年12月の第1土曜日に行っている「生協まつり」においても、20周年記念事業を冠し、宇都宮の名物である餃子の無料配布や抽選会では1等賞をホテルディナー券に、COOP商品詰め合わせを新たに「生協賞」として設けたりと、賞品を豪華に、当選本数も多くしました。おかげさまで、組合員の皆さまに好評をいただき、例年より多くご来場いただきました。これからも、組合員の皆さまに愛されるように生協活動に取り組んでいきます。

宇都宮市職員生協

とちぎコープ生協

スーパーマーケット コープ鶴田店がオープンしました

12月2日、とちぎコープで11店舗目となるコープ鶴田店が宇都宮市鶴田町にオープンしました。コープ鶴田店は、生鮮・惣菜を中心にコープ商品も充実させ、地場商品や地場野菜の品揃えをしています。また、環境を意識した「エコストア」として、照明、空調や冷房の設備などに省エネルギー機器の導入をし、二酸化炭素排出量の抑制(既存店比CO₂・20%削減)をめざす一方で、オストメイト対応多目的トイレを設置するなど、環境だけでなく人にもやさしい店舗です。開店当日は、先着1000名に「マイバスケット」のプレゼントを実施しました。

食のパートナーとして、信頼されるスーパーマーケットとなれるよう取り組んでいきたいと思えます。

オストメイト

直腸がんや膀胱がんなどにより、臓器に機能障害を負い、腹部に人工的に排泄のための孔(ストーマ)を造設した方のことです。



とちぎよつ葉生協

ふれあいまつりを開催しました

11月22日(土)、小山市県南体育館駐車場で第21回のとちぎよつ葉生協ふれあいまつりが開催されました。小山市での開催は、今回で14回目になります。朝10時にまつりが開始。理事長挨拶の後、ステージ前では、小山市長が中心になっての元気アップ体操が行われ、たくさんの人たちが気持ちよく体を動かしていました。この日、参加した業者の数は、76社。来場者数は、4,500人です。会場になった駐車場の回りには、業者のテントが並び、中心には、組合員さんが出展した70区画のフリーマーケットもありました。

会場へ足を運んだ組合員さんからは、「一度食べてみたかった品物が試食できてよかった」「生産者の人たちと話をすることで、気持ちが伝わった」などと、喜びの声が聞かれました。



第11回栃木県内協同組合関係者交流会を開催しました

2008年12月18日で10年を迎えた今回の協同組合関係者交流会には、行政関係者、県内学識者、県内農業・漁業・林業・酪農組合関係者、労働福祉・生協関係者など24名の方々にご参加いただきました。特別講演では、茂木町古口達也町長から「消費者と連携した農の再生と地域・町づくり、県内協同組合に期待すること」と題し、ゆずの木のオーナー制度を取り入れ地元の人たちと収穫祭を行っている「ゆずの里」の様子や、地域協議会を基にした「そばの里」「道の駅」「えごまの栽培」などの紹介がありました。

また「町有林を活用した町の歴史と町民の心に残る学び舎づくり」を基本コンセプトに、旧逆川財産区の

樹齢70年から90年の杉、桧を活用して建設された、茂木中学校の改築事業の報告がありました。引き続きJA栃木中央会廣瀬均農政広報部次長から、「JAグループの食の安全の取り組み」についての報告がありました。尚、JA全農とちぎととちぎコープ生協の連携が開始されたことを受け、協同組合間連帯事業の進め方についての意見交換を今後継続的に行うこととなりました。



特別報告される古口達也茂木町長(中央)